

あいわだより

2026/02/12 発行号 会津若松市倫理法人会

会津若松市倫理法人会 第1211回 モーニングセミナー 講師 「松坂 隆洋氏(磐梯町町議会議員)」



当会のイベントへの参加は、近年でもありましたが、MSに来られるのは、6年ぶりとのこと。講話を引き受けていただき、ありがとうございました。とても嬉しいです。

講話の内容は、抽象的に捉えると、家族を失い家

をいただいている。同時に、机上の学びではなく、実践してこそすべてだと強く思うのです。

講話は、かつて当単会にて青年委員長や専任幹事という役職を経験され、共に学んでおられた 磐梯町町議会議員 松坂 隆洋 様でした。「倫理法人会を振り返って」改め「倫理法人会に入って良かったこと」というテーマで、お話いただきました(なんと当日、その場でタイトル変更(笑))。

族を求めらる中で、向き合った苦難と、倫理が支えとなってそれを乗り越えていった当時を振り返ったお話。そして経験に学び、愛にたどり着き、今もまた挑戦して歩んでいるというかつての同門・同志への報告であったと思います。

会長の話と重ねながら、お聴きして感じたのは、まず「苦難」を「苦難」と歓迎し、向き合うことから始まる。向き合ったら、どのように対応していくか。倫理の仲間と共にあることで、対応の選択

■ 会長挨拶より。 苦難の中にいると、やらなければいけないことがどんどん見えて、時間が有限であることがよくわかる。もし苦難がなければ、「明日、やろう」と先延ばしにしてしまう。プレッシャーがなければ、何となく生活していたかもしれない。そう思えば「苦難」とは、やはり「有難いこと」と思える。本心から、苦難を喜ぶものと思えていたか、改めて自問するような機会、「苦難」

あいわだより

2026/02/12 発行号 会津若松市倫理法人会

会津若松市倫理法人会 第1211回 モーニングセミナー 講師 「松坂 隆洋氏(磐梯町町議会議員)」

股や、「苦難」の解釈が増えていくことに、ひとつ光があるのだと感じました。また倫理をきっかけに、取り組んでいったことを継続し、そこから見えてきたこと、いただけてきたこともたくさんあるようでした。

最後にいただいた一言がとても印象的で「くじけても、落ち込んでも、全力投球!」という清々しいメッセージは、倫理法人会に通い、実践を通して学んでいた頃と違う種類の「苦難」が、今もこれからのあるけれど、学び、身につけた向き合い方で、これからも行くのだという強い決意に溢れていました。

「いつでも必要なときに、また戻ってきてね」という温かい言葉が、会員の皆さんからありました。嬉しいことですが、乗り越え方を既に知っている松坂さんがそれを求めて戻ってこられることはないのかなとも思います。なので、もしここに来られることがあるとすれば、この原理原則を分か

ち合いたい、確認したいという一つ上の次元で来て下さるのかなと思っています。先輩方の歩みのお陰で、こうして学びの場が続いているからこそ再開の場になりました。久しぶりにあっても、十分に「氣」を合わせ合うことのできた素敵なモーニングタイムでした。(春田事務長)

■ 今日の講話の感想です。「失敗しても成功するまでやり続けることが大事」ということは誰もが知っていることではありますが、それが出来る人はほとんどいません。特に婚活に関しては、

改めて松坂さんの素直に聞いて実践する力の凄さを感じました。あれこそ倫理実践ですね。

それと松坂さんの場を明るくする能力。あれは性格とかではなくて魂レベルのものだと思います。

自分も松坂さんみたいにニコニコ出来るようにしたいものです。

(春田副専任幹事)

■ 久々の松坂節をお開けてとても嬉しかったです。

当時、冬は誰よりも早く会場へ来て部屋を暖めてみんなを迎える姿や結婚を諦めない姿……一番の実践者だったなあと改めて思います。

県内にも松坂ファンは多く、安積野倫理法人会の立ち上げにはかなり尽力されて、感謝されてました。

深く考えている様で、何も考えていない様なナチュラルな天才松坂隆洋さんにまた戻ってきて欲しいと切に願っています。

(幹事 松澤さん)